

私たちも安心・安全なまちづくりに協力します



まちづくりへ協定

ナチュラルサイエンス



町と登別市は、株式会社ナチュラルサイエンス（東京都）と1月25日、「地方創生に関する包括連携協定」を締結しました。地方創生を内容とした協定締結は町としては初めてです。

連携は「地域の発展やまちづくり」「地域・暮らしの安全安心」「子育てや子どもの育成」など5項目です。

虎杖浜に工場「ナチュラルファクトリー北海道」と「ナチュラルスキンケアガーデン ナチュの森」を展開する同社はこれまでも、災害時の指定避難所登録、地域の清掃活動、観光振興、新生児へのギフトセットや町全世帯への消毒液の寄贈などまちづくりを支援しています。

小松令以子同社代表取締役は「2年越しの協定です。従業員ともども地域に根差した企業活動を願っています。お役に立てれば」とあいさつしました。小笠原春一登別市長は「ナチュの森は子どもを持つ親たちの希望ある場所として愛されています。温泉を核とした観光振興や子育て支援などでお力添えを」、戸田安彦町長は「この地域（虎杖浜）の活性化など連携を取りながら進めていきたい」と、それぞれ話していました。



万が一に備え協定

アイヌ民族文化財団



町と公益財団法人アイヌ民族文化財団は2月1日、「災害時における指定緊急避難場所としての使用に関する協定」を締結しました。

財団が管理するウポポイ（民族共生象徴空間）の慰霊施設の敷地を、津波災害（津波・大津波警報発令）時の緊急避難場所として利用できる内容です。

施設（白老615-2）は、町道沿いの標高55mの高台で面積は約15,200㎡（町内の緊急避難場所として最大）、国立博物館などから徒歩で約1km地点です。敷地内には避難した来場者やスタッフ、町民ら約5千人を収容できます。

常本照樹財団理事長は「地域と連携して当たれることを心強く思います。災害に対して万全を期していきたい」とし、戸田安彦町長は「津波は広域で対策も難しい災害。防災力の向上に大きく寄与するものです」と話していました。

北海道電力

町は同月3日には、北海道電力株式会社・北海道電力ネットワーク株式会社と「大規模災害における相互協力に関する基本協定」を締結しました。災害時における停電の早期復旧の迅速化を相互に図る目的です。

予告

大人の学び場「熱中小学校」白老で4月23日から始動

熱中小学校プロジェクトは、「もういちど7歳の日で世界を…」をキャッチフレーズに、山形県の民間団体が2015年に始めました。経営者や大学教授、技術者、アーティスト、医師、シェフ、研究者など実にさまざまな分野のエキスパートが講師を務め、そこから地域の人材育成や異業種交流、地域間交流、特産品開発などにつなげようと取り組んでいます。現在全国に15校、海外に1校となっています。

20年に開校した熱中小学校江丹別校（旭川市）が、白老町民有志の開校要望に応え、NPO法人しらおい創造空間「蔵」（毛笠史寛会長）と共同で江丹別白老分校として開校することになりました。“校舎”は「蔵」とオンライン。校長は江丹別でブルーチーズ作りに取り組んでいる伊勢昇平さん、教頭は毛笠会長でスタートします。

授業は月1回を予定し、白老と江丹別の交互に開催します。前後期に分け近く生徒を募集します。授業料は半年間で12,500円の予定。それぞれの講師はまだ未定ですが、「日本資本主義の父」といわれる渋沢栄一の5代目子孫で実業家の渋沢健さんや世界の大学でジャーナリズムを学びメディア関係のエキスパート・安部純子さん、全国ホームホスピス協会理事長の市原美穂さん、新海誠監督のアニメ映画をマネジメントで支えてきた川口典孝さんなどで調整しているといいます。

白老分校開設に奔走したNPO法人しらおい創造空間「蔵」の米本智昭副会長は「ただ聞くだけの学校ではなく、学びで触発された方の交流が広がり、外への発信も含め新しい活動のスタートになれば」と期待していました。問い合わせは「蔵」（☎0144-85-3101）へ。

